第十八回「心の花賞」決定

第十八回「心の花賞」受賞作

笹本碧「手をあててみる」

鈴木陽美「紙吹雪」

正賞|| 賞状および『佐佐木信綱全歌集』

副賞|| 佐佐木幸綱色紙

選者賞|| 各選者の著書、記念品

選考委員（選者）

佐佐木幸綱、奥田亡羊、駒田晶子、田中拓也、俵万智

選考経過

①応募総数 九十一編

②佐佐木幸綱、奥田亡羊、駒田晶子、田中

拓也で予選。各選者が十編を選び投票。七月二日に合議し、票の重なった作品を中心に二十五編を一次予選通過作とした。

③俵万智を加えた各選者が三編に投票し、得票上位から八編を二次予選通過作（○印）とし、大会当日の最終選考会に臨んだ。

④七月二十八日午前十時より、大会会場の如水会館にて最終選考会。候補作八編について合議し、「心の花賞」を決定。また各選者が「選者賞」を選んだ。

予選通過作

○十亀弘史「独り学び」

志水千登世「院内模様」

花美月「ムーミンの手術着」

山本枝里子「音楽に負けない言葉」

○笹本碧「手をあててみる」

原ナオ「恋する時間」

高橋秀「仕事場の窓」

鎌田由紀「われの手を待つ」

○清水あかね「ひひらひら」

安野ゆり子「スイカの残り」

服部崇「ニューヨークのリフレイン」

熊田新子「苔」

○石田郁男「木靴を履いて」

佐藤博之「曜かき一日」

松本実穂「平たく残る」

○鈴木陽美「紙吹雪」

○経塚朋子「カーネーション」

森屋めぐみ「すずらん通り」

塚本瑞江「明日をもちょう」

○月丘ナイル「鶴を折る」

水口奈津子「水をゆらして」

桜望子「雨上がり人虎伝」

浜田ゆり子「砂蟹」

○森祐希子「対話」

桑野智章「ガードの下の居酒屋」